

# 防災塾

No.13

## 防災を「忘災」にしない為に。

前回に続き、今回も防災に関する私の忘備録の引出しからです。(順不動)

### ■学んだこと

倒壊した家屋からの脱出のための注意事項

- ・寝室には倒れるもの、落下するものは置かない。
- ・懐中電灯、厚い靴下カスリッパ、携帯ラジオ、手袋等は枕元の柱にかけておく。
- ・脱出口が見つからないときは、屋根を破って脱出する。
- ・どこでガスが洩れているかわからないのでマッチ、ライターは絶対に使用してはならない。
- ・カーラジオを聞く。
- ・脱出できたらまず近所の人の救助にあたることを忘れてはいけない。

### ■学んだこと

- ・思い知ったのは、行政だけに「公共の全てをまかせてはいけない」ということと、市民一人ひとりの自覚と責任能力を高めていかなければならないということ。

### ■学ぶべきは(パネルディスカッションでの内容より)

- ・身の安全から被災者の期待は刻々と変化する。次は水と食料、避難所の確保。そして応急仮設住宅。移行していく局面の先を見通し、展望を示すことが大事だ。
- ・人それぞれ家族構成も違うし、仕事もある。そんな中でも出来る備えがある。備えのハードルを下げ「これなら私もできるわ」と思ってもらおう。「ひとごと」と思っていた人たちに「自分ごと」と思ってもらおう工夫を心がけている。災いを忘れない「忘災」もあると思う。
- ・支援物資の中で不足していた物が、東日本大震災のときと同じだった。例えばミルクや離乳食、アレルギー対応食、入れ歯、お尻ふき、生理用品。ママたちからそういった声を聞き、同じことが起きていて感じた。経験した仙台市がいち早く送ってくれた。
- ・家屋が全壊したとき、一番にやること。→ 罹災証明書をとること。生活再建のための資金など全ての対応は罹災証明書に基づいて決められるから。

### ■火器は古くなると爆発する

- ・容器は、外部に錆・へこみ・傷があれば危険性ありと判断すべき。ABC消火器の粉末薬剤(リン酸アンモニウム)は目安として5年ごとに詰め替えが必要。

### ■片付け 破傷風にも注意

- ・被災した家の片付けでケガをして破傷風にならないように注意をする必要がある。土壌や汚泥の中にいる。  
→ 予防の第一はケガをしないこと。長袖と長ズボンを着用し、厚手のゴム手袋をはめ、底の厚い靴を履く。発症を防ぐワクチンもある。

### ■災害時、水洗トイレは使えない

- ・東日本大震災で避難所となった学校で、課題となった設備で最も多く挙げられたのがトイレで74.4%。他に、衛生管理や人力による水汲みなどの課題が上げられる。
- ・地震発生から6時間以内にトイレに行きたくなくなった人がおよそ7割に上った。

- ・災害時でも普段と同じトイレ環境を求めるのは決して贅沢ではなく、命に関わる問題です。

### ■阪神・淡路大震災時の死亡原因割合

- ・建物の倒壊による圧迫死は死亡者全員の17%、これよりも多いのが家具や電化製品の倒壊での圧迫死が46%。それらのガラスや金属による大けがが原因なのが25%と言う結果が出ている。
- ・大地震の時、タンスや冷蔵庫・電子レンジなどは落ちたり倒れたりではなく、縦に揺れるのでそれらは座布団が飛びように飛び回るのです。そして、地震発生からわずか15分でそれらの物に打ち付けられて圧死するのです。
- なぜこうした大地震の本当の原因は多くの人々に知られないのでしょうか?

→ それは 死人に口なし だからです。

#### ※この事例から学ばなくてははいけない教訓

家具や電化製品を固定する必要があるということです。

### ■家庭用カセットコンロの爆発

使用時の注意事項

- ・コンロで炭おこしをしない。(高温になりやすい)
- ・ボンベが40℃以上にならないように使用する。保管も同じ。
- ・空焚きを避ける
- ・風よけなどとしてコンロの周囲を覆わない。(高温になりやすい)
- ・コンロを2台以上並べて使用しない。
- ・コンロのガスボンベの上までナベなどで覆わない。

### ■帰宅困難者 家路急ぐな

混乱する街 殺到する人→状況を把握できてから移動

- ・首都直下地震が起きて、多くの人が都心から自宅を目指せばどうなるのか?  
→ 「一斉に帰宅を始めると人命に関わる」と指摘する。  
内閣府が依頼したシミュレーションで自分が危険に晒される。救急や消防の活動を妨げ、人命を奪う原因になる恐れがある。
- ・勤務先や外出先やで災害に遭ったら、家族間で安否の連絡手段や行動の仕方を打合せておくとう安心できる。

### ■枕元に服 置くんやで

- ・空襲に備えて両親から教わった習慣だ。揺れが治まると肌着の上に着てすぐに行動することができた。

### ■避難生活 注意点は

- ・慣れない避難生活では、体調を崩しやすい。過ごし方によっては重い病気を招くこともあるので注意が必要だ。  
こまめに運動・水分補給・保温を心がけて

### ■災害の心構え イメージが大事

- ・防災用品として必須なのは水とトイレ。発災から3時間程度で、3割の人がトイレに行きたい。
- ・災害に対する心構えや意識、イメージを持つことが何よりも大事で、少しの備えがパニックを防ぎ、人を思いやる気持ちになり、自分や家族以外の人を助ける事にもつながる。

地震に無関心では、自分や家族を守れません。ぜひ、今後開催する「防災塾」へ足を運んでください。

「防災塾」の開催日は階段下掲示板へ貼り出します。

「防災塾」塾長・防災士 竹内 一三 ☎046-254-7137 後援：相武台グリーンパーク災害対策合同会議